

コラボ

通信 vol. 44



【写真】
クローバースタウン(主催: 学生団体ちびっこクローバース)
撮影: 西川末菜(メディアプロデュース学部)

おしえて先輩

学生時代にボランティアや社会貢献活動、地域に飛び出して動いた経験って、本当に卒業してから役に立ってるの？
そんな素朴な疑問を先輩にぶつける、卒業生インタビュー。

今回インタビューに協力してくれたのは、英文学科卒の都築佑那さんです。

プロフィール

都築佑那(つづき ゆうな)
文学部英文学科2010年卒
外資系工具メーカー勤務。

都築さんは、在学中に中部フェアトレード※1 学生ネットワーク団体《328（ミツバ）》を設立、愛知淑徳大学でもフェアトレードサークル《EX（エクス）》を立ち上げました。それ以外にも（有）フェアビーンズでのインターンシップ、大ナゴヤ大学※2 のスタッフなど学内外での活動に積極的に参加。また1年間休学して、アイルランドにも留学していた行動派です。

大学卒業後、2回の転職を経て、いまは外資系工具メーカーで働いています。社会人になっても空いた時間を使ってフェアトレードショップ、アイリッシュバーの手伝いをしています。最近は友人から依頼を受けて、イベント会場にコーヒークーティングをすることもあったか。平日は仕事をして、休日はボランティア…と休む暇もないように思いますが、その行動力と元気はどこから来るのでしょうか？

今回のインタビューでは、学生時代のこと、現在のこと、都築さんにとって CCC とはどんな場所だったのか、ボランティアとはどんなものなのか、様々な質問をしました。

Q CCCに入ったきっかけは？

「2年生の時に友達と新校舎（1号棟）の探検をしていて CCC に入ってみようということになりました。その時に、スタッフの方の説明を受けて、こんな施設があるんだなあと思いました。参加したボランティアの報告書を出しに行くため頻繁に CCC に通っていました。スタッフの方が優しくて入り浸っていました。ボランティアの紹介してもらいました。」

初めてのボランティアはロボットミュージアムのアテンドだったそうです。子どもとの接し方が難しく苦労したとのこと。

その後、CCC スタッフの方に紹介していただき、フェアトレードショップ POZONE（オゾン）を知ったのをきっかけに、フェアトレードショップのインターンシップにも挑戦したそうです。

Q なぜ、フェアトレードに興味をもったのですか？

「OZONEで手にしたホワイトチョコレートがとても美味しかったんで

す。OZONEの店主である杉本皓子さんが、このチョコレートを作っている国では児童労働の問題が^{※3}あって、それを解決するためにチョコレートを公正な取引で日本に輸入しているんだよと教えてくれました。その時に美味しかったチョコレートを食べたのにいやな気持ちになりました。何も知らずに私たちはチョコレートを食べているけどその背景には苦労している人たちがいるんだということを知りました。」

Q 《328》《EX》の活動で大変だったことは何ですか？

「328では、皆がフェアトレードについて何かしら思いがあって活動していました。でも愛知淑徳大学で EX を立ち上げたときに、私と他の学生に温度差があって、それを解消するため一人ひとりに私の思いを伝えました。」

大変だったことはあるものの、ボランティアでは様々なことを学び経験したと都築さんは言います。

Q ボランティア経験でいまの自分に役立っていることは何ですか？

「ボランティアでは多くの人と関わってきました。特に大人の協力が必要でした。やりたいことがあるとき、どのように自分のやりたいことに周りを巻き込んで協力してもらうのか。これは仕事にも生きていますし、周りのおかげでいまも自分のやりたいことができています。」

いまでも、時間があるときにはインターンでお世話になったフェアビーンズや留学をきっかけでつながったアイリッシュバーの手伝いをしたり、他にもたくさんボランティアをしている都築さん。最後にボランティアをしたことがない…という学生たちに向けてメッセージをお願いしました。

「私にとってボランティアは、好きだったり必要だと思ってやっていることがボランティア活動として評価されているという感覚です。自分のやりたいこと、エネルギーを注げるものが私にとってボランティアなんです。CCC は、大人に自分の考えを言っても反対されず耳を傾けてくれる素敵な場所です。何でもいいので、自分のやりたいことを考え、全力で取り組むことが大切だと思います。」

用語解説

※1 フェアトレード
開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。

※2 大ナゴヤ大学
ナゴヤを面白がる人を増やすことをミッションに、「街」にフォーカスした授業やイベントを企画している特定非営利活動団体です。

※3 チョコレートの原材料であるカカオの主要原産国ガーナカカオ農園の労働に従事する子どもたちの数が100万人とも言われています。世界ではおよそ1億6800万人の子どもたちが児童労働、なかでも8500万人ほどが危険な労働に従事しているというデータもあります。

都築さんの「好きだったり必要だと思ってやっていることがボランティア活動として評価されている」という言葉がとても印象的でした。
社会人になって、学生よりも自由な時間が少なくなる中で、都築さんは新たに挑戦したり、さらに積極的にボランティアに参加しています。私も社会人になっても自分のやりたいことに熱中できるような大人になりたい!と思いました。



聞き手／加藤真衣
メディアプロデュース学部3年



ボランティアリポート！

子どもたちの想像力、考える姿勢、やってみる行動力ってすごい！

ちびっこクローバース クローバースタウン



8/22 Sat 8/23 Sun
in 長久手キャンパス

CCC学生団体「ちびっこクローバース」による、子どもたちだけのまちづくりイベント「クローバースタウン」が長久手キャンパスで開催されました。2日間を通じて延べ140人の小学生が参加し、仮想の街づくりを楽しみました。ボランティア学生たちは、子どもたちが自分自身で考え行動し課題を解決していく過程をサポート！子どもたちの柔軟なアイデア、行動力、考える力から学生たちも多くのことを学びました。

学生コメント

「子どもたちによるまちづくり」という言葉に興味を持った私は去年からクローバースタウンに参加するようになりました。実際に参加してみると、教室一部屋が本当にひとつの街のようになっていて子どもたちの想像力の豊かさに驚かされました。子どもたちに積極的に関わっていくことで仲良くなれますし、子どもたちの行動から学生の方が勉強させられる場面が多かったです。また、終わった後の子どもたちの笑顔や「また来たい！」という声はとてうれしく、次回の原動力にもなりました。（文学部教育学科3年 藤好由布子）



ごみを拾って“AQUA”な街に！

アクア ソーシャル フェス！！ AQUA SOCIAL FES!! 藤前干潟清掃ボランティア



8/29 Sat in 藤前干潟

AQUA SOCIAL FES!!は、「なごや環境大学」実行委員会、中日新聞社主催による藤前干潟の清掃活動です。当日は、大人から子どもまでたくさんの人たちが参加し、清掃活動に励みました。名古屋市のごみ焼却施設の見学もあり、身近なごみ問題について考える一日になりました。

学生コメント

今回はじめて参加をした私は、藤前干潟に流れ着くごみの多さに驚かされました。しかし、参加した皆さんと清掃活動を行ううちにごみは初めに比べてみるみる減っていき、非常に達成感を得ることができました。ごみを拾うことがとても楽しくなり、20分という清掃活動時間はあっという間でした。ごみを集めたり、分別をすることを通じて、他の参加者の方たちと自然に協力することができ、とても楽しかったです。楽しみながら環境保護にもつながるボランティアなので、次回もぜひ参加したいと思います。

（福祉貢献学科1年 宇佐美舞）



秋～冬の オススメ ボランティア

【子ども】

- 児童館のクリスマス会
- お父さんと焼きいもを焼こう！

【環境】

- 森林整備

【福祉】

- デイサービス（高齢者施設）
外出支援
- 障がいをもつ子どもと
クリスマスリース作り

【その他】

- 設楽であそぼう
- 名古屋ウィメンズマラソン

☆詳細は月2回発行される「ボランティア情報」をチェック！

ヒト×ヒト つながりリレー

ボランティアの面白さ

＝新しい人との出会い！

いろんな人と出会える楽しさで

ボランティアにはまっていくな人も
多くいます。

つながりリレーでは「ボランティアで
こんな人につながったよー！」を紹介します。

リーコと初めて会ったのは雪まつりボランティア！リーコを一言で表現すると「スーパーラッキーガール」。人を幸せにする力をもっていて、リーコの周りはいつも笑顔にあふれています。明るくて、前向きで、どんなことにも全力でぶつかっていく、その人間性が大好きです！学生時代にこんなスペシャルな人に出会えてよかったです。私も周りを幸せにできる人間になりたい。

望月雄斗（もっちー）さん
健康医療科学部スポーツ・
健康医科学科 4年



私がみき先輩と初めて会ったのは、なごや環境大学のイベントでした！みき先輩は、一見何事もスマートにできてしまう人のように見えますが、その裏では人一倍努力を怠らない人です。でも、ふざける時には心から人を笑わせ、人を引っ張る時には先頭に立ち明確な指示を出す力があります。こんなに信頼し、尊敬できる先輩と出会えて本当に幸せです！いつも私を励ます存在でいてくれることに感謝☆

仲辻亮子（リーコ）さん
文学部教育学科 2年



次号は…
みき先輩からの
つながりリレー！

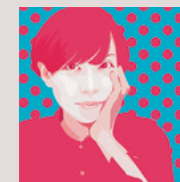


三木麻香（みき先輩）さん
文学部教育学科 3年

CCC イチオシ！

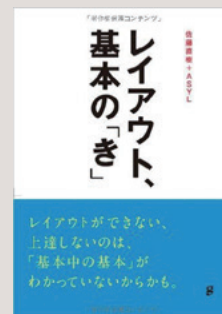
CCC運営委員の先生に聞く「学生へのイチオシ！」

初回はメディアプロデュース学部の宮田先生から、
学生のみなさんにきっと役立つ一冊をご紹介します。



（メディアプロデュース学部 宮田雅子先生）

レイアウト、基本の「き」



佐藤直樹 + ASYL 著
グラフィック社、2012年
2,484円

ゼミやサークル、CCCでのボランティアなど、日ごろさまざまな活動をしているみなさんにとって、誰かにになにかを伝えなければならない機会は多いことでしょう。イベントのお知らせや自分たちの活動紹介のポスターやリーフレットなど、せっかく魅力的な活動をしているなら、それができるだけ多くの人に興味を持ってもらえるように伝えられると良いですね。そういう場合に役に立つのが本書です。本書はデザインの本ですが、プロのデザイナーではなく、むしろデザインを専門としていない人に向けて書かれています。文字や写真、図を組み合わせ、情報をわかりやすく、美しくデザインするためにはどうしたら良いのか。そういったことが項目ごとに紹介されています。「絵心がないとデザインはできない」、なんてことはありません。良いレイアウトには、実は一定の法則があるのです。書体の選び方や文字を並べるときの間隔、写真がもつ意味、図を描くコツ、配色の考え方など、ちょっとしたことを知っているだけで、情報を美しく見せ、わかりやすく伝えることができるようになります。もうちょっとうまく伝えられたら良いのかなと思うことがあったら、ぜひこの本のことを思い出してください。



Happy Smiles! CCC

ボランティアで生まれた、見つけた、いい笑顔!



A、B… 学生団体ういるく(被災者家族支援)プレキャンプ
C、D… 学生団体エコのつぼみ(里山保全)竹林整備
E、F、G… 学生団体ちゃっちる(障がい児支援)流しうどんイベント
H、I… 学生団体 Amigo! (外国人児童支援)本読み活動
J、K… AQUA SOCIAL FES!! 藤前干潟清掃活動

編集後記

学生生活を、大学生の自分をもっともっとおもしろがろう! そんなテーマで作ったリニューアル版コラボ通信、いかがでしたか? コメント、ご感想などぜひお寄せください。

CCCの広報強化の力強い助っ人として、今回から学生編集チームも結成。

そんな制作チームに入ってくれる学生も引き続き募集しています。興味がある人はCCCスタッフまで声をかけてくださいね。

(CCCスタッフ・岩瀬)

学生編集チーム

加藤真衣(メディアプロデュース学部3年)

西川未菜(メディアプロデュース学部3年)

後藤 梓(メディアプロデュース学部2年)

宇佐美舞(福祉貢献学科1年)

倉野愛弓(福祉貢献学科1年)

発行: 愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター

●長久手キャンパス(11号棟1階)

480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9 (0561)62-4111(代)

●星が丘キャンパス(5号館1階)

464-8671 名古屋市千種区桜が丘23 (052)781-1151(代)

Eメール asccc@asu.aasa.ac.jp

HP <http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/index.html>

利用時間 平日9:00~18:30(授業日以外9:00~17:00)